

編 集 後 記

今年度も前期の編集後記（平成20年6月30日発行予定）を書く時期になりました。この編集後記は30年もの間、脈々と、その時々の編集長が書いてきました。私もそれを受け継ぎ、一体どれだけのヒトが読んでくれているのかも分からず、編集に携わった所感や社会記事を織り交ぜながら書き綴っています。

今号は総説を柴田先生、村田先生、大熊先生に投稿して頂きました。大変有り難うございます。

平成19年度から開始した“最近のトピックス”も皆様のお陰で順調に続いています。内容も読みやすく、簡単に歯科領域の話題を知ることができ、大層良い企画であったと思っています。

今年度のヨサコイソーランも6月8日で終了しましたが、医療大の学生による演舞は昨年に続き優秀賞（第9位）の栄誉を勝ち取ることができました。スポンサーの補助もない状況で、学生達はよく頑張ったと思います。おめでとう。

日本全体に目を移すと、原油高騰、秋葉原での殺人事件（6月8日）、地球温暖化など、日常生活がし難い方向に向いているような気がしてなりません。7月には洞爺湖サミットが開催されます。是非実りある会議をしていただき、今よりは住みやすい地球を作っていくて欲しいものです。我々も他人事ではなく、一歩でも前進できるように力を合わせ、子供達が夢をもてるような地球を残していきたいものです。

次号（第27巻、第2号）の発行は平成20年12月31日です。

会員各位の投稿原稿募集の締め切りは平成20年9月31日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定（2007年第26巻、第2号の巻末あるいは歯学部生理学教室のホームページ；<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~physiol/>）をご参照の上、投稿してください。